第25回　定員500名　参加費 無料

技術研究発表会のご案内

開催の趣旨

財団法人国土技術研究センター（JICE）は、昭和48年に設立以来、今年で38周年を迎えます。この間JICEは、高度な建設技術に関する調査研究機関として社会に貢献して参りました。

第25回となる技術研究発表会は、JICEの実施している社会資本整備に係る政策提言等、先進的研究内容や幅広い活動状況等を広く一般の方々に対して紹介する公益事業の一環として開催いたします。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

特 別 講 演

「震災復興とユビキタス」

東京大学大学院
情報学環・学際情報学府　教授　**坂村　健** 氏

日 時

平成23年（2011年）7月13日（水）
10:00～17:45

●当日プログラム：ウラ面参照
●参加申し込み：
JICEのHP（http://www.jice.or.jp/）に参加申し込みがございますので、必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。
※多数のご来場が予想されますので、参加ご希望の方はお早めにWEBにてお申し込み下さい。
●その他：
本技術研究発表会は、土木学会認定の継続教育（CPD）プログラムに認定されています。

会 場

日本消防会館（ニッショーホール）
東京都港区虎ノ門2-9-16　TEL.03-3503-1486

問い合わせ先

（財）国土技術研究センター情報・企画部
TEL:03-4519-5006　FAX:03-4519-5016
E-mail　gijutu-happyoukai25@jice.or.jp

JICE 財団法人 国土技術研究センター
Japan Institute of Construction Engineering
〒105-0001　東京都港区虎ノ門3-12-1（ニッセイ虎ノ門ビル）

第25回 技術研究発表会 プログラム

■午前の部

10:00～	挨拶	理事長　大石　久和
10:05～	JICE事業概要	理　事　藤本　保　JICEの事業概要について
10:20～	特別講演	東京大学大学院　情報学環・学際情報学府　教授 「震災復興とユビキタス」　坂村　健　氏
11:45～	昼食･休憩	

■午後の部

河川政策グループ

13:00～
○岡安 徹也
（首席研究員）

新たな治水計画の展開に関する考察

気候変化を前提とした今後の治水対策を考えるためには、起こりうる可能性のある洪水全てを対象とし、被害最小化を目的とした治水計画の考え方が必要である。本発表では、気候変化を前提とした現在の治水計画立案の問題点、新たな治水計画の在り方・枠組みの提案、S 川のケーススタデイ等を通じて得られた新たな治水計画立案に向けた技術的な手法の提案等について報告する。

13:25～
○原田　慎
（主席研究員）

大規模水害時の広域避難のあり方に関する研究

「大規模水害対策に関する専門調査会」報告 (H22.3) では、利根川・江戸川、荒川における大規模水害発生時には、複数の行政区域が長期間水没するため、長期の広域避難計画の策定の必要が指摘されている。本発表では、首都圏大規模水害発生時をケーススタディーに、約 230 万人の広域避難の考え方や、課題と対策についての研究成果を報告する。

13:50～
○平野　智
（主席研究員）

堤防と道路の一体整備に関する調査研究

河川堤防は洪水防御の根幹施設であるが、洪水に対する所要の安全率を満足しない区間が多く存在し、これらの堤防の効果的効率的整備が求められている。本発表では河川堤防の強化と地域ニーズの高い道路整備とを一体的に実施する場合を想定し、整備の優先度、堤防断面構造について検討し、一体整備の効果、課題について検討した成果を報告する。

14:15～14:30　休　憩

道路政策グループ

14:30～
○秋山　聡
（主任研究員）

道の駅の機能に関する研究

「道の駅」は、「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域の連携機能」が備わっている他、近年では、地域の拠点として、防災機能をはじめとする、多様な機能を持った道の駅も存在する。本発表では、道の駅における機能に係る現状及び課題、果たすべき役割に加え、東日本大震災における被災地区周辺の道の駅が果たした機能等について報告する。

14:55～
○西見 宣俊
（主席研究員）

自転車通行空間の形状と自転車の加減速との関係に関する分析

健康志向の高まり、燃料の高騰などにより、都市部を中心として自転車利用が増加するのに伴い、自転車関連交通事故の比率が高まっている。本発表では、交差点の事故の削減に向け、自転車専用の通行空間が接続する交差点における自転車の速度変動と自転車通行空間の形状との関係分析等を行った成果と自転車速度の適正化に資する交差点設計方法等について報告する。

15:20～
○野平　勝
（上席主任研究員）

道路交通円滑化のための課題路線の抽出及び評価手法について

都市部の道路において交通渋滞が慢性化し、道路を利用するバス交通の定時性確保に大きな影響を及ぼしている箇所が存在する。本発表では、特にバス交通の円滑化を図るため、データから得られる交通状況の把握と、バス利用者が感じる渋滞箇所の両面からアプローチを行い、課題路線・箇所を抽出、評価する手法を検討した成果について報告する。

15:45～16:00　休　憩

都市･住宅･地域政策グループ

16:00～
○朝日向 猛
（上席主任研究員）

都市の脆弱性の把握とその対応方策のあり方に関する検討調査

大規模地震やそれに伴う火災延焼を最小限にとどめるよう市街地を適切に区画する延焼遮断帯を形成する都市防災総合推進事業（不燃化促進事業）が大都市を中心に実施されている。本発表では、中小都市の特性を踏まえながら、延焼遮断帯の性能等について再検討するとともに、特に対策を講ずるべき密集市街地にとって効果的な対策のあり方等について報告する。

16:25～
○沼尻 恵子
（上席主任研究員）

既存施設のバリアフリー化に係る費用及び技術的課題についての調査研究

バリアフリー法により、一定規模以上の新設の施設におけるバリアフリー化が進んでいる一方で、物理的スペースの確保や付加的な費用といった制約を持つ既存の施設等の改修が困難との指摘がある。本発表では、施設数の多い鉄道駅と既存建築物の改修事例について収集、分析を行い、改修の費用及び技術的課題、対応策や改修の工夫等について検討した成果について報告する。

技術･調達政策グループ

16:50～
○小宮 朋弓
（上席主任研究員）

調査・設計等分野における総合評価落札方式の運用及び関連施策の実施と効果について

調査・設計等分野では価格と品質を総合的に評価する総合評価落札方式を平成 20 年度より本格運用しているが、本方式でも低入札が発生し、成果品の品質確保に懸念が生じている。本発表では、調査・設計等分野における総合評価落札方式の運用と成果品の品質確保のために実施された施策の効果に関する分析結果について報告する。

17:15～
○山田 武正
（上席主任研究員）

アセットマネジメント等の国際標準化の動向について

従来の我が国における国際標準化対応には外圧への対抗という受け身の姿勢が見られた。一方、欧州は国際標準への影響力をますます拡大しており、我が国の国際標準化にも国際市場への進出という積極的な対応が求められている。本発表では、構造物の設計・施工基準や新たに ISO 規格化が始まったアセットマネジメント規格を例として、最近の国際標準化の動向について報告する。

17:40～17:45　閉　会